

学校だより

光輝燦然

～ 磨け！自分の色 ～

第20号 令和4年8月29日（月）発行 発行責任者 校長 馬場廣明

全国柔道大会、たいへんにお世話になりました。

ホームページでもお知らせしましたとおり、第53回全国中学校柔道大会ではたいへんにお世話になりました。保護者の皆様のご理解と生徒たちのご協力により、大会は無事に終了いたしました。本校の体育館が大会前日の練習会場（4日間）となり、各部活動には大会期間中は練習ができずご不便をおかけいたしました。また、25日の始業式終了後には3年生の生徒の皆さんに体育館の畳の片付け（390畳）等にご協力いただきました。片付け担当の他校の先生方からは、本校生徒の仕事ぶりや気持ちの良い挨拶にとても感心されていました。校長として、とても嬉しく心強く感じました。皆さんのご協力に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

2学期がスタート！充実した学校生活を！！

1年間で一番長い学期、2学期がスタートしました。**2学期は82日間**あります。主な学校行事としては修学旅行、中体連駅伝大会・新人総合大会、英語弁論大会、生徒会役員選挙、校内文化祭、3年生は12月に入ると私立高校の受験も始まります。一日一日を大切に、早め早めの取り組みが大事になります。それぞれの学年にふさわしい態度や行動がとれるよう、一人ひとり頑張りましょう。

始業式での学年代表生徒の発表より

3学年代表

●● ●●くん（3の3）

「中学校最後の夏休み」は今までとは違った夏休みでした。夏休みだからと言って、遊んでばかりという訳にはいきませんでした。それは受験生だからです。志望校に合格するためには夏休みを有意義に過ごす必要があります。夏休みの始めの頃、体験入学に参加して実際に高校に行きました。また部活のときや友だちに会ったときは、勉強の話をしました。このことが更に学習意欲を高めてくれました。

また、コロナウイルス感染を予防するために、特にどこかへ行くことはせず、家でゲームをしたり弟とバドミントンをしたりして、楽しい時間を過ごすことができました。毎日規則正しく生活できたと思います。

そんな夏休みも終わり、ついに2学期が始まります。1学期は毎日いろいろな出来事がありましたが、全てに精一杯取り組むことができました。2学期は何事にも全力を尽くし、後悔のないように行動したいと思いません。特に中学校最後となる行事や修学旅行があります。それらをみんなで団結して、納得できる楽しいものにするためにも全力で頑張りたいです。

また、実力テストで合計点数を大幅に上げられるように勉強したいと思います。期末テストに向けても復習をしっかりと、効率よく勉強し毎日努力をし続けたいです。1学期は最上級生として反省しなければならないこともありますが、成長もできました。これからの2学期を過ごしていく中では、また多くの問題に直面するかも知れません。テストや行事が多くありますが、納得のできる結果を残すためにも、問題にしっかりと向き合っていきたいです。

この2学期は楽しい2学期にします。終わってほしくないと思えるくらいに充実した毎日を過ごしたいです。あっという間に時間は過ぎてしまうので、残り少ない中学校の時間をより大切に、有意義に使いたいです。

中学校最後の行事や残り少ない中学校生活、テストや受験勉強、大切にしたいことが多くあります。今までの中学校生活で学んだことを最大限に活用して、西中の一員として後悔しないよう頑張ります。

※ 1、2年生の代表生徒の発表原稿は次回の学校だよりで紹介いたします。

須賀川市少年の主張大会発表作品より — 8月2日開催 —

多様性について

須賀川市立西袋中学校 3年 ●●●●●

LGBTQという言葉を知っていますか。LGBTQは私たちが日常生活の中でも耳にする機会が多くなって、性的マイノリティ・性的少数者を表す総称として使われている言葉です。今はそこに+も加わり、LGBTQ+まであります。

Lはレズビアン。レズビアンは性自認が女性で、女性を好きになる人のことです。Gはゲイ。性自認が男性で、男性を好きになる人のことです。Bはバイセクシャル。両性愛者のことで、女性も男性も好きになる人のことです。Tはトランスジェンダー。心の性と体の性が一致していない人のことです。以前は「性同一性障害」と言われていましたが、最近、「性別違和」や「性別不合」に替わりました。つまり「病気」という括りから外れたのです。Qはクワーストニング、クィア。性自認、好きになる性が決まっていない・決められない人のことです。性にとらわれたくないというのが感覚として正しいのかもしれませんが、ここまでは社会的に知れ渡っていると思うのですが、次の+がどのようなものか知っているという人は少ないと思います。+はLGBTQでは表せない、多様な性の在り方を示しています。性的マイノリティというのはLGBTQだけではありません。他にもたくさんのセクシュアリティがあります。このように、性の在り方は人それぞれであり、それは自分自身だけではなく、皆さんにも共通して言えることです。だからこそ、一人ひとりが正しい知識を持つことが重要なのです。

では、実際にLGBTQ+の人は、どのくらいいるのでしょうか。あまり知られていない性自認だったり、カミングアウトしていない人も多くいるので、「やっぱり、そんな人はいないんじゃないの？」と思う人もいるでしょう。LGBTQ+の割合は、以前は20人に1人でしたが、今は10人に1人と言われています。例えるのであれば、血液型がAB型の人の割合と同じです。また、左利きの人の割合とも同じです。皆さんの周りにはAB型の人はそれなりにいますよね。だから自分が気づいていないだけで、そこにはLGBTQ+の人がいるわけです。そう考えると、LGBTQ+が身近なものであるとわかると思います。20人に1人から10人に1人になった理由は、LGBTQ+に関する情報が増えたことによります。また、それによって一般の認知、意見が広まり、自分の性について考える機会や正しく向き合う機会が増えたことが一つの要因なのでしょう。

LGBTQ+は病気ではありません。10人に1人なので、あなたの家族や友人にいます。LGBT、Q+の人が身近にいるこの現代社会。今後も増えると予想されます。みんなの当たり前、女子は男子を好きになる男子は女子を好きになる、女子なら女らしく、男子なら男らしく。それは、全員同じではありません。長い間、当たり前だと思っていたことに苦しみを感じていた人たちがいました。そんな人たちの自分らしく生きることを大切にしようという思いが広がってきました。自由や平等はとても大切です。自分の人生を自分で決められる社会。性別によって、自分のらしく生きられないのであれば、よい社会とは言えないと思います。

LGBTQ+の人たちは、カミングアウトすることにためらいのある人も多くいると思います。偏見はまだあり、勇気があるからです。だから、カミングアウトされたときは、自分と違うからと言って、「気持ち悪い」という言葉ではなく、「へえ、そうなんだ」くらいの反応が、一番よいと思います。きっとうれしいと思います。

今、一人ひとりに向き合い、多様性を認めることが求められています。まずは、LGBTQ+のを知ることが、よりよい社会を築くための第一歩です。その一歩を踏み出しましょう。

新型コロナウイルス感染症対策について

夏休み中、そして、2学期に入ってからでも残念ながら新型コロナウイルス感染症の勢いは止まらない状況にあります。こうした状況を踏まえ、3年生の修学旅行も1泊2日（1日減）に急遽変更しました。おそらく今学期も1学期同様の学校生活が続くものと思われます。各ご家庭におかれましても、感染対策を十分に行いマナー化しないことが大事です。生徒一人ひとりが今まで以上に、感染対策の意識を高め、絶対に感染しないようご努力をお願いします。しかし、いつ・どこで・だれが感染してもおかしくない状況にあることは理解し、自覚しておかなければなりません。よろしくお願ひいたします。

～本校ホームページのアクセス数が132万7千件を突破！いつもご覧いただきありがとうございます。～